

3-2 各集落の調査結果

次項からは、調査対象集落の区長へのヒアリングを基に作成した各集落の調査結果を示します。調査結果には、各集落の写真、基礎データとなった国勢調査による各集落の人口推移、農業集落カード（農業センサス）による農業に関するデータも併記してあります。また、内容については、以下のようになっています。

集落の概要 : 各集落の位置、人口、産業などに関する現状や変遷を記載。

特徴的な取り組み : 集落の人口維持に関係のありそうな取り組みがある場合、その内を紹介。

集落の今後... : 各区長の集落の今後に関する予想や感想、コンサルタントの総合的な見地から、その集落の人口に関する将来の姿を予想。

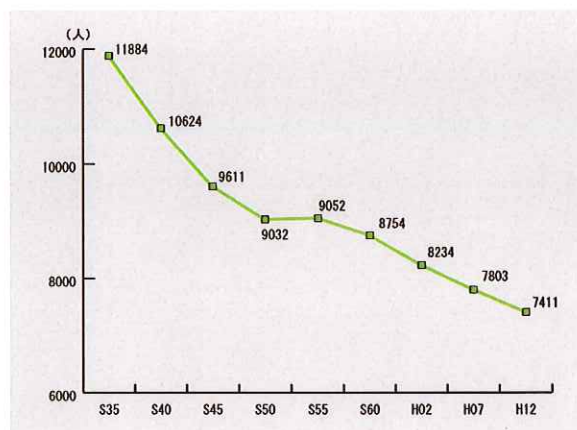
(1) 越知町

越知町の概要

越知町は、高知市から西方約 32 k m の距離に位置し、総面積 111.58 k m² で、北は吾北村および池川町に、西は吾川村および仁淀村に、南は葉山村に、東南部は佐川町に、東はわずかに伊野町および日高村に接しています。

総面積の約 85% は山林で、宅地や農地の割合は 5% 以下に留まっています。町の周辺は、標高 300~900m の石鎚山系の支脈が連なり、その間を仁淀川が西から東へと蛇行し、坂折川、柳瀬川などがこれに注いでいます。坂折川と柳瀬川が仁淀川に合流する付近一帯は盆地となっており、越知町で唯一まとまった平地で、越知市街地を形成し、越知町の産業、交通等の中心地となっています。その他の集落は河川沿い、または山麓・台地部に点在しています。

町の人口は、昭和 35 年 11,884 人でしたが、その後高度経済成長に伴う若者の都市やその周辺部への人口流出などにより昭和 50 年には 9,032 人と大きく減少 (-2,852 人) し、その後 50 年から 55 年にかけて 20 人の増加がみられるものの、それ以降は一貫して減少が続き、



平成 12 年現在の人口は 7,411 人となっています。平成 12 年時点の人口構成は、若年比率 11.2%、生産年齢比率 54.5%、高齢化率 34.4% となっています。

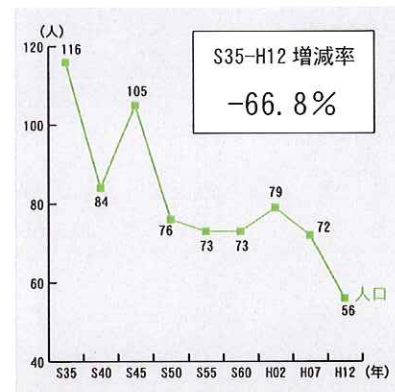
産業別就業者数の推移をみると、昭和 45 年頃までは第一次産業就業者が多く半数近くを占めていましたが、昭和 45 年から 50 年にかけて就業構造は大きく転換し、第一次産業就業者が大幅に減少して、第二次産業および第三次産業就業者が増加しました。第二次産業就業者の増加は、そのほとんどが建設業の増加によるものであり、この時期以降、第二次産業は昭和 60 年に若干減少したものの、長期的には増加傾向を続けていま

す。その結果、平成 7 年国勢調査による産業別就業者比率は、第一次産業 17.6%、第二次産業 35.0%、第三次産業 47.4%となっており、第一次産業就業者はさらに減少し、第三次産業就業者が増加しています。

越知町は、県内有数の畑作振興地として、第 1 次産業を中心に産業が展開されてきましたが、公共土木を中心とした建設業の増加、特に近年は医療等を含めたサービス業の増加によって、農業従事者は減少傾向にあります。但し、データとしては現れていませんが、自給用や高齢者の生きがいとしての農業は多く行われていると考えられます。

これらの他、町内では、患者バスが整備されているのが特徴です。患者バスは、桐見川診療所が昭和 44 年に休止になったことなどに伴い、無医地区の医療確保のため、昭和 45 年から町有バスで患者の輸送を行ったのが始まりで、現在、週に一日を基本として 12 集落へバスが運行されています。患者バスは、単に病院への足としての利用だけでなく、買い物やおしゃべりの機会を提供することにもつながっています。

深瀬 -fukase-



| 年次 | 総戸数 | 農家数 | 専業農家数 | 第1種 兼業農家数 | 第2種 兼業農家数 | 非農家数 | 経営耕地面積 |
|------|-----|-----|-------|--------------|--------------|------|--------|
| S45年 | 24 | 21 | 2 | 16 | 3 | 3 | 1,640 |
| S50年 | - | 17 | 2 | 12 | 3 | 0 | 1,616 |
| S55年 | 18 | 17 | 2 | 7 | 8 | 1 | 1,937 |
| S60年 | - | 17 | 3 | 8 | 6 | 0 | 1,674 |
| H02年 | 17 | 16 | 8 | 6 | 2 | 1 | 1,859 |
| H07年 | - | 15 | 7 | 7 | 1 | 0 | 2,143 |
| H12年 | 17 | 14 | - | - | - | 3 | 1,473 |

(資料：農業集落カード)

集落の概要

深瀬は、町役場から北西方向、道路距離で9.9kmの位置にあり、南向きの斜面に耕地が広がる越知町有数の高台の畑作振興地です。その高台の斜面に広がる耕地の様は、仁淀川を挟んで遙か下の対岸を通る国道33号線からも望めます。

集落の平成12年現在の人口は56人で、若年比率7.1%、生産年齢比率50.0%、高齢化率42.9%と少子高齢化が進展していますが、集落内には40代前後の農業後継者が6名おり、近隣の集落では最も後継者が多く、他集落からは「農業が元気な集落」という認識を持たれています。後継者の多くは、越知町や佐川町の方と結婚されており、児童、生徒のいる世帯もあります。

集落の全17戸中、13戸が農家であり、残りは年金生活を送る高齢者世帯となっています。輸入野菜の影響で野菜の値段が下がる中、ケール(青汁の原料)やカブ、お茶の

栽培をしているほか、ここ深瀬では製薬会社との契約栽培で行っているミシマサイコ（薬草）の栽培が盛んであり、比較的収入が安定した農業に取り組んでいることが後継者の多いことにもつながっているようです。また、ミシマサイコについては軽量で、作業工程（摘芯、洗浄）の機械化が進んでいることから、高齢者にとっても栽培しやすい作物となっており、ミシマサイコ+年金で十分に生活していけます。さらに、ミシマサイコは重量で単価が決まっているため、等級による選別が必要なく、作った量がそのまま収入につながることも魅力です。但し、契約先の製薬会社の景気の影響をもろに受けるため、生産調整がかかることもあります。実際、2～3年前には大規模な生産調整が越知町全体で行われ、ミシマサイコの生産農家数もその時に一気に落ち込みました。現在の景気は良い方で、今のところ、地元側の窓口となって製薬会社と契約している農事法人「ヒューマンライフ土佐」で作った分は全て集出荷している状況です。

農業以外では、集落の40代までを中心とした層が建設業に従事しており、そのほとんどが地元の建設会社で働いています。深瀬のある横島地区は、現在急傾斜地の工事や国道33号線まで抜けるアクセス道の拡幅工事（3m→5m）が進んでおり、今後5年程はその工事が続く予定で、越知町内では比較的大型の公共土木工事が残っている唯一の地区となっています。よって、町内の他地区に比べると、公共土木による雇用の創出が一定あります。しかし、その頼みの綱である一連の公共土木工事も現在の工事が終了すれば、その後、大きな工事の計画等はなく、他地区と同様、建設業も非常に厳しい状況となることが予想されます。

特徴的な取り組み

①農休日の設定

深瀬では、数十年前から月に一回、「農休日」を設定しており、その日については集落内の農家全員が休みを取ることとしています。現在では時期によって月4～5回の休みをそれぞれの農家が個別で取っているようですが、「農休日」については、全員が必

ず休みを取るようになっています。休みの日には、旅行や遊技場へ行ったり、庭の手入れをしたり…と、それぞれが自分の好きなことをして過ごしているようです。

「農休日」の設定は近隣集落では深瀬のみが行っており、「農業は休みがない」というイメージを覆す取り組みがこの集落で数十年前から行われていたことは特筆すべきことです。

②近隣集落との連携

これまで、国道までのアクセス道の拡幅工事や横畠地区一帯の農業用水工事は、深瀬・清水・栗ノ木・柚ノ木・筏津の5集落で構成されている「横畠西部地区」でまとまって陳情その他を行ってきました。この5集落は、共通の問題意識を持って話し合いや陳情等を行う組織（期成同盟のようなもの）をつくっており、代々その会長になった方はみんな熱心で、県や町に度々出向いて情報収集等を行っています。陳情の際は、地区で取り組んでいる農業の将来ビジョンに合わせた形の提案をしており、県や町への説明を地元がしっかり行っている印象を受けます。

1つの集落ではなかなか解決できなかつたり、取り組めなかつたりすることを複数の集落が集まって話し合う場を持ち、一緒に活動することで解決しています。

③農業の位置づけ

公共土木工事によって一定の雇用が現在でも保たれており、若いときは建設業、年を取ったら農業…というような流れが一定できています。そういったことから、高齢者が行っている農業については、自分たちが食べていく為だけではなく、農業が公共土木を地区に取り入れる理由の一端（農業振興の基盤整備の一つである集出荷のための道路拡幅等）を担っているという側面があるようです。

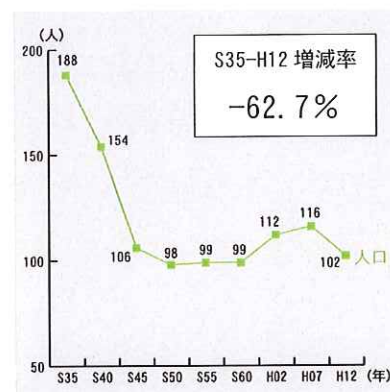
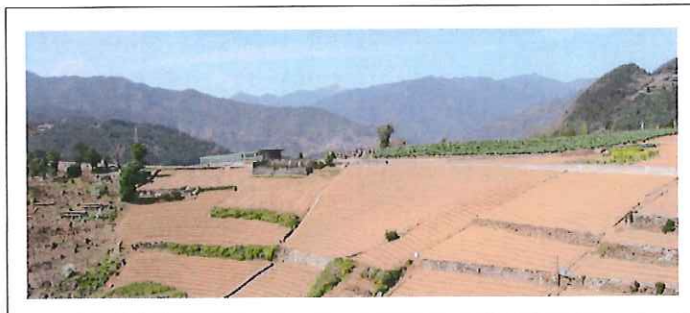
集落の今後…

あと数年の内に公共土木についてはこの地区においても激減することは確実ですが、他地区の集落に比べて、土木工事の仕事が無くなるまで多少の猶予があるといえます。

その間、現在集落の農業の主力ともいえるミシマサイコの景気が持つかどうかは鍵を握っていますが、公共土木による若い世代の就業の場確保と、安定した収入を目指す農業のさらなる推進で集落の人口は一定維持できそうです。

また、国道 33 号線までのアクセス道が開通すれば、越知町や佐川町までの時間距離が短縮され、現在市街地に住んでいる集落出身者が帰ってくる可能性があるほか、農業を活かしたグリーンツーリズム等による新しい産業の可能性も広がります。但し、子供のいる世帯にとっては通学に不便な場所であることが最大のネックとなっできそうです。

清水 -shimizu-



| 年次 | 総戸数 | 農家数 | 専業農家数 | 第1種兼業農家数 | 第2種兼業農家数 | 非農家数 | 経営耕地面積 |
|------|-----|-----|-------|----------|----------|------|--------|
| S45年 | 48 | 30 | 4 | 20 | 6 | 18 | 1,810 |
| S50年 | - | 28 | 5 | 9 | 14 | 0 | 1,653 |
| S55年 | 32 | 32 | 6 | 3 | 23 | 0 | 1,799 |
| S60年 | - | 32 | 16 | 3 | 13 | 0 | 1,672 |
| H02年 | 47 | 27 | 14 | 2 | 11 | 20 | 1,540 |
| H07年 | - | 25 | 9 | 4 | 12 | 0 | 1,584 |
| H12年 | 30 | 24 | - | - | - | 6 | 1,331 |

(資料：農業集落カード)

集落の概要

清水は、町役場から北東方向、道路距離で8.6kmの位置にあり、深瀬同様、南向きの斜面に耕地が広がる越知町有数の高台の畑作振興地です。隣集落の薬師堂には横島小学校(平成15年4月～休校予定)や簡易郵便局、農協の支所、酒店、バス停等があり、比較的生活の利便性が高い集落となっています。

集落の平成12年現在の人口は102人で、若年比率8.8%、生産年齢比率49.0%、高齢化率42.2%と少子高齢化が進展しています。

全29世帯中、集落外に勤めている人は4～5人で、そのほとんどが建設業と農業の兼業です。その他については、高齢者の年金農家を中心とした専業農家となっています。集落内では、50代の夫婦が中心となって5～6年程前から生産者組合をつかってハウストマトの生産に取り組んでいるほか、ケーキなどの加工品づくりに挑戦している婦人グ

ループもあり、40～50代の夫婦で農業に積極的に取り組んでいる人が多くいます。

昔は水が無くて困っていましたが、町の事業で農業用水が一定整備されてからは便利になりました。今後も農業用水については整備を進めていく方針で、その工事を陳情する際は、横島西部地区で団結し、「農業で食べていく」という地区の意志を前面に出すことで行政にアピールしてきました。集落内では、「いいもの（作目）があれば、みんなで作ろう」という住民同士の連帯感があり、「農業で食べていく」という意志がはっきりしています。

若者層については以前から建設業に就く傾向が強かったものの、一貫して農業を軸としたハード&ソフトの基盤整備を進めてきたことが、元気な農家がいることにつながっていると考えます。また、集落や地区のイベント（花見、盆踊り、運動会等）には住民が積極的に参加しており、そういったことが新規作物に取りかかる際、集落として取り組める基礎となっていると考えます。

特徴的な取り組み

① 近隣集落との連携

清水も深瀬と同じ横^島畑西部地区に入っており、農業を中心に5集落が協力体制を取ってきました。何か決め事がある時には、区長をはじめとする各集落の代表が集まり、本音で話し合いを進めてきたと言います。現在でもその仕組みは受け継がれており、陳情に関しても単に「道路がほしい」というものではなく、何らかの形で農業振興に結びつくように考える傾向があります。

② Uターン者の地域活動への参加

清水では、Uターンで県外から帰ってきた退職者に公民館長を任せ、その方の趣味を活かして陶芸教室を公民館で開いています。このように今まで地域にいなかった人材をうまく地域に取り込んでいく取り組みは、今後、集落の人口維持には欠かせないI・U・Jターン者を受け入れる際、大変参考となります。また、清水では地域に縁のないIタ

ーンに関しても概ね歓迎の姿勢を取っており、現在の公民館長に関する取り組みは、外からは行ってくる人にとって地域の歓迎ムードと併せて大きな魅力になると考えます。

③ 都会での生活経験のある区長

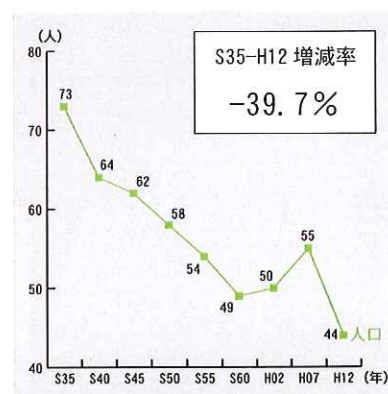
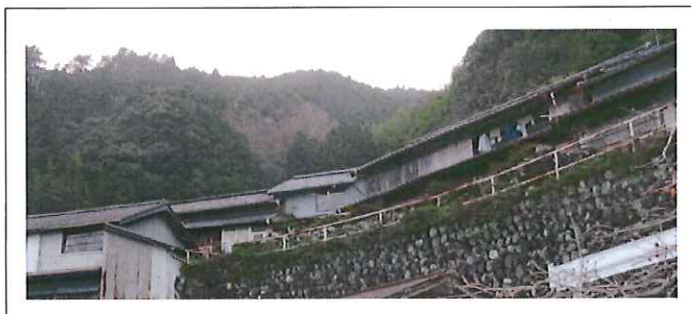
現在の清水の区長は一度都会（大阪）に出て行いって帰ってきたUターン経験者であることから、Uターン者の扱いや、集落内外の人とのコミュニケーションについて自身の経験を活かしています。特にコミュニケーションについては、その重要性を認識している様で、頻繁に他集落との話し合いの席を持つといった取り組みを続けています。今後は、この清水のように、一度地域外（特に環境の違う都会）に出て帰ってきた人が、集落に新たな風を吹き込み、地域活性化の原動力となる可能性があります。

集落の今後……

将来的には自然減による人口減少が予想されるものの、農業を基軸とした産業育成や他集落との連携をこれまで進めてきたおかげで、集落再生に向けた新たな取り組みをはじめめる土台はできていると考えます。また、集落内にキーパーソンが数名いるようなので、その方たちが活躍できる仕組みを整えることで、国道33号線までのアクセス道完成に伴う観光+直販など、新たな可能性を生み出すこともできると考えます。

今後は特に「若い力」が集落には必要不可欠であり、I・Uターン者の受け入れが一つの鍵を握っています。I・Uターンによって集落の人口が増え、今までなかった人材が地域にうまく溶け込むことで、集落の新たな可能性を見つけることができると考えます。

柵ノ森 - tsuganomori -



| 年次 | 総戸数 | 農家数 | 専業農家数 | 第1種兼業農家数 | 第2種兼業農家数 | 非農家数 | 経営耕地面積 |
|------|-----|-----|-------|----------|----------|------|--------|
| S45年 | 13 | 13 | 3 | 7 | 3 | 0 | 1,220 |
| S50年 | - | 13 | 5 | 5 | 3 | 0 | 1,283 |
| S55年 | 13 | 13 | 4 | 6 | 3 | 0 | 1,394 |
| S60年 | - | 11 | 6 | 5 | 0 | 0 | 1,465 |
| H02年 | 13 | 10 | 7 | 3 | 0 | 3 | 1,215 |
| H07年 | - | 10 | 5 | 3 | 2 | 0 | 1,204 |
| H12年 | 12 | 7 | - | - | - | 5 | 1,008 |

(資料：農業集落カード)

集落の概要

柵ノ森は、役場から北西、道路距離で約 5.6 km の越知町の市街地を一望できる高台の日当たりの良い南斜面に位置しています。

集落の平成 12 年現在の人口は 44 人で、若年比率 13.6%、生産年齢比率 50.0%、高齢化率 36.4% と他集落に比べ若年比率が比較的高くなっています。

農業が盛んな集落で、主に隣の佐川町の借地でショウガ等を作っているいわゆる“出づくり”の専業農家が多い状況です。出づくりが多いのは、メインの作目となっているショウガが集落のある傾斜地での耕作に向いていないことが影響しています。借地料は以前に比べ、高齢化や後継者不足で農地が余ってきたこともあり、低くなっていますが、今まで使っていた農薬が使用禁止となったため、手間暇がかかるようになったことや、中国産のショウガの影響で価格が下落していることが影響して経営は苦しい状態です。

但し、ショウガについては加工業者との契約栽培や少数ではありますが、減農薬の契約栽培をしている人もおり、独自のルートによる出荷を行っています。

集落ではショウガの他にもピーマン、ハクサイ（キムチ用）、カブ（千枚漬け用）、ミシマサイコ…といったように様々な作目に取り組んでおり、ピーマンは農協の系統出荷を利用しているものの、その他の作目については契約栽培を積極的に取り入れています。

梅ノ森の住民は「農業で食べていく」という意識が強く、就業状態を見ても、現在の区長が建設業に就いているほかは、主に農業をやっていきます。農業でやっていくという産業の軸がはっきりしていることで、住民間で契約栽培や有利作目の情報が循環し、集落全体で農業を盛り立てている気運が伺えます。

集落には比較的若い子供のいる世帯があるものの、近年、集落を世帯ごと出ていくケースが発生しています。最近集落を出ていった世帯の主な理由には、子供の（学校への）送り迎えに時間がかかることがあげられており、現在、児童・生徒用のスクールバスが集落まで行き着いていない（近隣の本村まで）状況が影響していることが伺えます。

特徴的な取り組み

① 農休日の設定

梅ノ森では、昭和40年以前から「農休日」が毎月1日と15日に設定されており、集落内で協定を結んで、必ずその日には休みを取るようになっています。農休日を楽しみにしている方は多く、旅行や趣味の時間として活用しているようです。農休日があることで、農業に対する印象が良くなっている面があり、他集落と比べて若者が出ていっていないことや、集落外から農家の嫁に来た人たちにとって梅ノ森の印象が良かったことに関係していると思われる。

② 個人同士のつながりによる情報収集

梅ノ森で取り組まれている複数の契約栽培については、周辺集落に契約栽培の情報源となっている方がいて、その方から梅ノ森の個人へ情報が流れてきており、個人同士のつながりから農業に関する情報が集落に伝わっているようです。

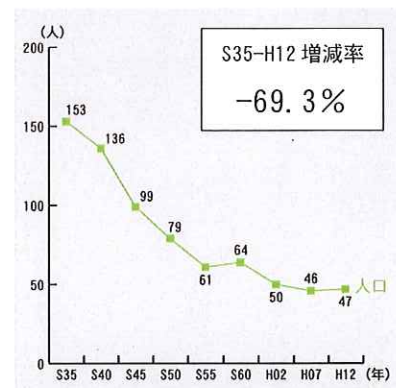
③ 若者の意見を聞いてくれる長老の存在

集落には区長とは別に、リーダー的存在の長老がおり、集落内で起こる様々なもめ事等を抑えてくれているほか、若者の意見も聞いてくれており、幅広い層の意見を受け止めてくれています。このことは、集落で生活していく上の様々な弊害を取り除いていくことにつながっていると思われ、若者が一定集落に残っていることにも少なからず影響していると思われます。

集落の今後・・・

「農業で食べていく」という意志が住民に強く、農業に対する取り組みも契約栽培を積極的に取り入れたり、「農休日」を設定するなどして先進的な取り組みをしていることから、農業後継者が一定育ってきました。今後は、時代の流れに合った契約栽培や有利作目への取り組みをより強化し、少しでも安定収入につながる農業を確実に目指していけば、農業が雇用・就労の場として確立され、Uターンによる人口維持の可能性も出てくると考えます。

日ノ浦 -hinoura-



| 年次 | 総戸数 | 農家数 | 専業農家数 | 第1種兼業農家数 | 第2種兼業農家数 | 非農家数 | 経営耕地面積 |
|------|-----|-----|-------|----------|----------|------|--------|
| S45年 | 26 | 26 | 10 | 4 | 12 | 0 | 1,510 |
| S50年 | - | 22 | 4 | 9 | 9 | 0 | 1,424 |
| S55年 | 21 | 21 | 10 | 8 | 3 | 0 | 1,190 |
| S60年 | - | 21 | 11 | 4 | 6 | 0 | 1,998 |
| H02年 | 21 | 21 | 12 | 7 | 2 | 0 | 1,726 |
| H07年 | - | 15 | 8 | 2 | 5 | 0 | 1,444 |
| H12年 | 21 | 16 | - | - | - | 5 | 1,020 |

(資料：農業集落カード)

集落の概要

日ノ浦は、町役場から北西、道路距離で約12.9kmの高台に位置しています。小学校や商店、郵便局のある集落までは遠く、決して生活の利便性が高い集落とは言えません。

平成12年現在の人口は47人で、人口構成は若年比率0.0%、生産年齢比率36.2%、高齢化比率63.8%と、集落は限界集落化しています。

年金暮らしの高齢者がほとんどで、年金をもらっていない世帯については、2~3人が建設業についているほかは、ほとんどが農業で生計を立てています。農業については、約5名がショウガと輪作しながらミシマサイコの栽培をしている他、ワラビ、ネギ、ピーマン等を栽培しています。高齢者が行う農業は、収入源というよりは、生きがいや健康づくりの為にしている場合が多く、農業はあまりお金に結びついていないようです。平成12年の調査では、経営耕地面積は激減し、非農家数が急増しており、高齢化によ

って農業を辞める人も出てきているものと考えられます。

特徴的な取り組み

①「なごみの山里」

人を呼んで、集落を明るい雰囲気になりたいとの想いで計画された県の事業の「なごみの山里」づくりの中で、「あじさい街道」が整備されています。これは3年前から地元の老人会と黒石小学校が、黒石小学校から日の浦までの沿道にあじさいを植えたものです。あじさいの手入れは老人会のメンバーが中心となって行っており、花が咲く頃には「あじさいまつり」も行っています。老人会のメンバーは、以前は主にショウガの出づくりを行っていた方々で、現在はリタイアして老人会で各種の活動を行っています。

集落の今後・・・

高齢者の積極的な活動により、集落内のまとまりは強いと考えられますが、現状維持で精一杯であり、農業をはじめとする産業の基盤が衰退化しているため、人口増につながるUターンを促進することは困難と考えられます。